



1 ページと同一個体。

眼柄は額の前縁にある凹み，すなわち眼窩にそっくり収まります．眼柄の先にはこれまた細長い眼があります．砂泥に潜り，眼柄だけを出すのです．あたかも，潜水艦の潜望鏡を思わせる構造になっています．

ハサミがまた面白く，不動指と可動指にそれぞれ鋭い歯があります．しかも，噛み合わせがしっかりしています．これに挟まれたらさぞかし痛いことでしょう．



1 ページと同一個体。



メナガエンコウガニ。

2004年6月25日大方町入野で採集。

左のカニは，大方町の入野漁港で採集したエンコウガニ科のメナガエンコウガニです．生息環境と生活様式が似ていると，体形がよく似てきます．

メナガガザミは1975年に浦戸湾で採れた記録があり，大月町の新満目でも記録があります．私は2001年須崎漁港産の1個体を保管しています．土佐湾では珍種の部類でしたが，4年ほど前から浦戸湾ではかなり採れ出し，今では流通ルートに乗るほどです．美味しいカニであるとのこと。

2004年12月15日発行 発行者：町田吉彦（理学博士，高知大学理学部教授，四国自然史科学研究センターセンター長）

本書の内容の無断複製を禁止します．複製ならびに内容についての問い合わせは FAX 088-844-8310（町田研究室直通）をお願いします．